

メジャーズの参入が相次ぐナミビア

(Total, ExxonMobil, Qatar Petroleum, The Ministry of Mine and Energy, JETRO 他)

- 2020年1月時点、原油・天然ガスの商業生産は行われていないが、天然ガスの確認埋蔵量は2.2Tcfとされる。EIAによると、石油消費量は2.7万b/dで、天然ガスの消費はない。
- 2014年の油価低迷以前にはブラジルで巨大油田が発見されたサントス、カンポス堆積盆とナミビア沖合を含む南部大西洋石油システムに地質的相関性が期待されたことから、BP、Petrobras、Tullowなど深海探鉱に定評のある企業や中小独立系企業が相次いで探鉱に参加した。しかし商業規模の石油を発見できず、その後の油価低迷も受け探鉱活動は停滞した。
- ところが2019年に入り、Totalが南アフリカ沖合でガスを発見し、ExxonMobil、Total、Qatar Petroleumが隣国ナミビアの探鉱区に参加、あるいは権益を増加させるなど、同国の探鉱に新たな動きが見られる。
- ナミビアはブラジルとの地質相関性でポテンシャルがあり、財務条件が比較的良好と考えられるため、油価の上昇に伴い今後メジャーズの投資がさらに活発化する可能性もあり、今後の動向が注目される。

1. ナミビアの一般情勢と石油・ガス投資環境

1-1. 政治・経済状況一般

ナミビアの与党・南西アフリカ人民機構(SWAPO)は2019年11月27日の選挙でも勝利し、引き続き政治を支配し、安定的に政権を運営している。これまで政府は、雇用拡大、産業活性化、投資・貿易促進を優先課題として取り組んできたものの、GDP成長率(ナミビア銀行)は2017年がマイナス0.9%、2018年がマイナス0.1%と低迷し、失業率(ナミビア国家統計局)も33.4%(2018年)に上っている。

今後の見通しとして、安定的な政権運営は継続するものと見られるが、一方で、雇用の創出と所得の不平等は、引き続きナミビアの主要な経済課題となろう。

1-2. 石油・天然ガスの政策・行政体制

上流事業を管轄しているのは、鉱山エネルギー省(The Ministry of Mines and Energy)である。国営石油会社は、The National Oil Corporation of Namibia(NAMCOR)で、1991年の石油法により設立した。

探鉱・生産権益は、Royalty/tax arrangement またはPSCに基づいて付与される。石油税制の主な構成

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

要素は、Royalty (5%)、Petroleum Income Tax (現在の税率は課税所得の 35%)、Additional Profits Tax¹となっている。

中東や東南アジアでは 65%、あるいはそれ以上の政府取り分もあるところ、南アフリカ共和国やナミビアなどは政府取り分が 50~60%と比較的良好な財務条件と言われている。

2. ナミビア探鉱の概観

最初の探鉱井は 1927 年まで遡るが、最初の炭化水素の発見は 1974 年の Chevron によるナミビア沖合 130km の Orange 堆積盆地(水深 170m)での Kudu ガス田の発見である。Kudu ガス田は 1.3Tcf の可採埋蔵量と 2.8 百万バレルのコンデンセートがあると推定されている。しかし、商業生産に足る十分な経済性が見込まれないため、今日までガス田は開発に至っていない。Kudu ガス田の現在の権益保有者は BW Offshore (オスロ上場) (権益比率: 56%) と NAMCOR (権益比率: 44%) である。BW Offshore と NAMCOR は Kudu gas to power プロジェクトを検討しているが、ナミビア国営電力公社の NamPower は 5 年スパンの戦略計画に Kudu gas to power プロジェクトを含めておらず、また、2018 年にはエネルギー大臣が当該プロジェクトの実現は困難かもしれないと発言するなど、先行きは不透明である。

ブラジルのサントス、カンボス盆地との地質相関性があると見込まれたナミビア深海に期待が高まったことから、2010 年以降も BP、Petrobras など深海探鉱に定評のある企業や Chariot Oil & Gas や HRT などの中小独立系企業も次いでナミビアの探鉱に参加した。しかし、これらの探鉱は不成功に終わり、油価の低迷も相まって探鉱活動は低下していったのだが、2019 年に入り、ExxonMobil、Total、Qatar Petroleum がナミビアの探鉱区に参加、あるいは権益を増加させるなど、新たな動きが見られる。最近の動きを図 1、表 1 にまとめた。

¹ APT は会社がプロジェクトのネットキャッシュフロー (NCF) で指定された収益率 (IRR) を超えた場合にのみ請求される。APT は 3 段階になっており、第 1 段階は 1991 年石油法で定められている通り 25%。第 2 段階、3 段階は交渉によって設定されることとなっている。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

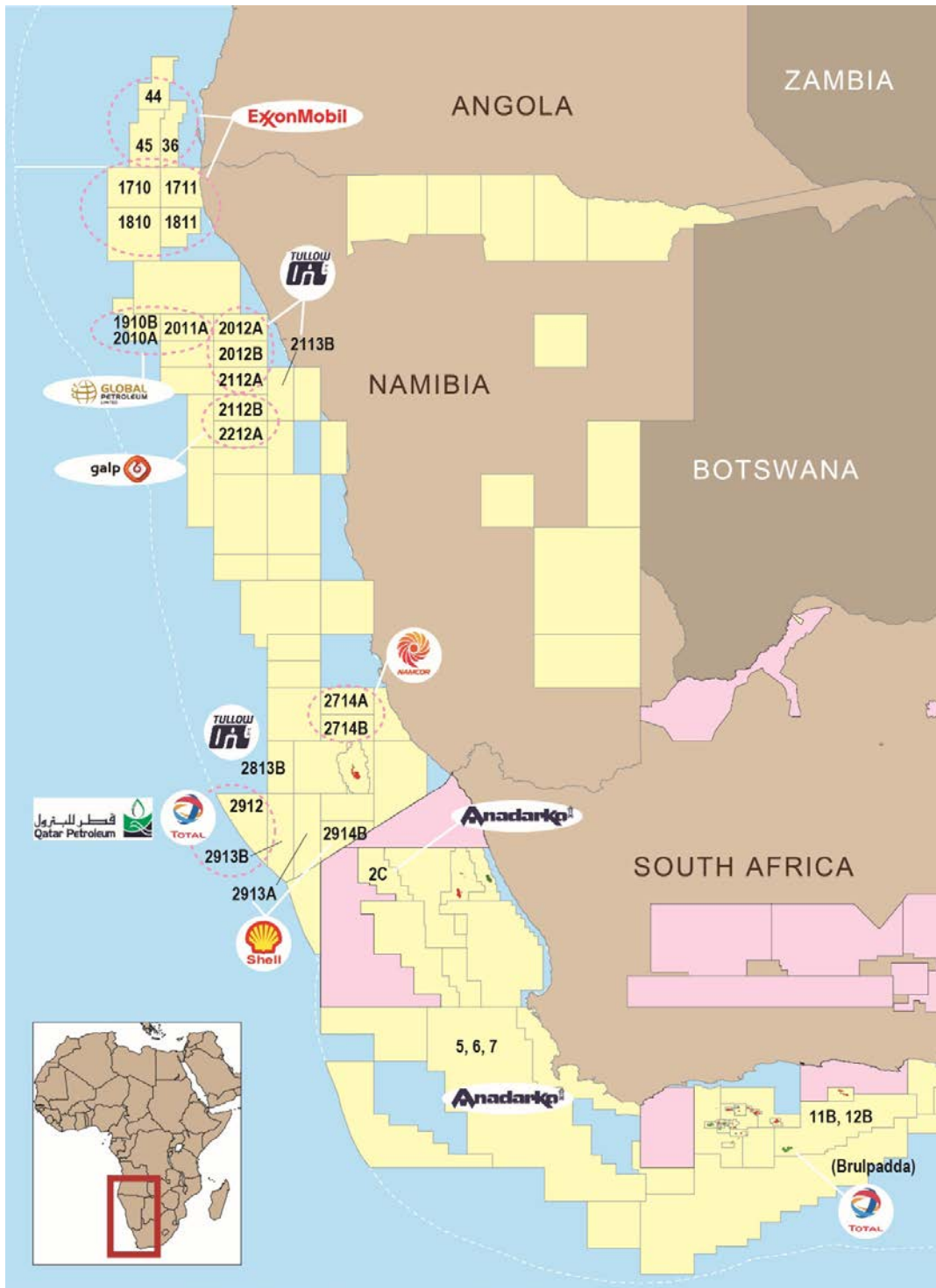


図 1: アンゴラ南部、ナミビア、南アフリカにおける主な探鉱鉱区

(各種資料に基づき JOGMEC 作成)

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

表 1:最近鉦区参入のあったナミビア沖合鉦区

鉦区	最近の動き
Block 1711, 1811A Namibe 盆地 水深 0~2,400m	2012 年: Chariot Oil & Gas 探鉦井掘削(ドライ) 2019 年 4 月: ExxonMobil ファームイン(権益比率: ExxonMobil 85%、NAMCOR 15%)。 2019 年 11 月、PGS 地震探鉦開始
Block 1710, 1810 Namibe 盆地 水深 4,000m	2010 年 2 月: AlphaPetro にライセンス付与(権益比率: AlphaPetro 100%)、2014 年 2 月同ライセンス失効 2019 年 4 月: ExxonMobil がナミビア政府及び NAMCOR と 契約署名。(権益比率: ExxonMobil 90%、NAMCOR 10%) 2019 年 11 月: PGS が地震探鉦開始
Block 2913B Orange 盆地 水深 北部 2,500m、南部 3,400m	2012 年 6 月: Grisham Assets Corp が Official Award 2013 年 11 月: Black Star Petroleum Ltd にオペレーター変更 (2014 年 4 月、Impact Oil & Gas Ltd による買収) 2017 年 7 月: Total ファームイン(権益比率: Total 70%、Impact Oil & Gas 20%、NAMCOR 10%) 2019 年 8 月 27 日: Qatar Petroleum ファームイン(権益比率: Total 40%、QP 30%、Impact Oil & Gas 20%、NAMCOR 10%) 2019 年 11 月: Total、探鉦井 Venus1 を 2020 年第 2 四半期 に掘削予定と発表。
Block 2912 Orange 盆地 水深 3,000~4,000m	2018 年 5 月: Total が Official Award(権益比率: Total 85%、 NAMCOR 15%) 2019 年 2 月: Impact Oil & Gas ファームイン(権益比率: Total 66.11%、Impact Oil & Gas 18.89%、NAMCOR 15%) 2019 年 8 月 27 日: Qatar Petroleum ファームイン(権益比 率: Total 37.78%、QP 28.33%、Impact Oil & Gas 18.89%、 NAMCOR 15%)

(各種資料に基づき JOGMEC 作成)

3. 隣国南アフリカにおける Total のガス発見

2019 年 2 月、Total は南アフリカ南部沖合 175km に位置する Outeniqua Basin 下部白亜系で層厚 57m (Net) のガス・コンデンセート層を発見した。南アフリカ西部 Block 5、6、7 では 2019 年 4 月に Shell が Anadarko 鉦区にファームインした。このような動きがナミビアにおける探鉦活性化にもつながっているのではないかと思われる。

● Brulpadda prospects (Block 11B, 12B)

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉦物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

権益比率: Total 50%

離岸距離: 175km、水深: 200～1,800m、面積: 19,000km²

権益比率: Total 45%(オペレーター)、Qatar Petroleum 25% CNR International 20%

South Africa consortium 10%

- Block 5, 6, 7

2019年4月、AnadarkoはShellに40%の権益を売却。

Anadarkoは引き続き40%の権益を保有するオペレーターであるが、Total - Occidentalのディールが完了すれば、TotalがAnadarkoの40%の権益とオペレーターを引き継ぐ。

鉱区面積は8万1,000km²で、Orange Sub Basinに位置する。

権益比率: Anadarko 40%(オペレーター)、Shell 40%、PetroSA 20%

4. まとめ

Totalはプレスリリースで、「南アフリカとナミビアを含む南部アフリカは大水深開発のホットスポットであり、ほぼ未探鉱の戦略的エリアは、アフリカ大陸のE&Pの潜在的成長推進力である」と述べている。ナミビアはブラジルとの地質相関性でポテンシャルがあり、財務条件が比較的良好と考えられるため、油価の上昇に伴い今後メジャーズの投資がさらに活発化する可能性もあり、今後の動向が注目される。

以上

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。